

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
76

振興協議会だより

【発行日】令和7年12月25日
【発行】苗場山麓ジオパーク推進室
【お問い合わせ】025-765-1600



「雪のふるさと、心のふるさと苗場山麓ジオパーク10年のあゆみ～写真と絵画でみる秋山郷の風景～」展を開催

2025年12月6日(土)～15日(月)の期間、長野県立美術館しなのギャラリーにおいて、苗場山麓ジオパーク認定10周年事業の1つとして、「雪のふるさと、心のふるさと苗場山麓ジオパーク10年のあゆみ～写真と絵画でみる秋山郷の風景～」展を開催いたしました。会場では、苗場山麓ジオパークの紹介とこれまでの10年間の活動を周知するパネル展示を行いました。併せて、これまで毎年開催してきましたフォトコンテストの優秀作品や、写真家の飯塚英春氏、戸谷英利氏、吉楽隆志氏が苗場山麓ジオパークエリア内で撮影された写真も展示しました。さらに、画家の早津剛氏による、苗場山麓ジオパークエリア内で描かれた、雪国の原風景である茅葺民家の絵画作品も展示しました。会場では、苗場山麓ジオパーク認定ガイドが常駐し、解説もしていただいたことで、お客様からじっくりご覧いただき、満足いただけた声が聞かれました。



苗場山麓地域の写真や絵画を展示



飯塚英春氏の写真作品

これまで、新潟県内や東京での周知活動を行ってまいりましたが、本ジオパークを、長野県の県庁所在地である長野市でPRを行い、長野県内からの誘客を図ることを目的として実施しました。12月の雪の降る季節の開催でしたが、多くの人々に熱心に見ていただき、会場で実施したアンケート結果をこれから集計し、今後の活動の一助にしたいと考えております。



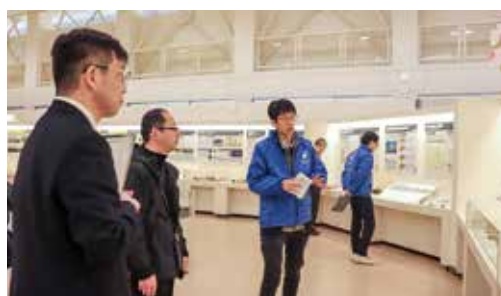
2026年の再認定審査に向けて鳥海山・飛島ジオパークの大野専門員をお招きしました

ジオパークは4年に1度、再認定審査が行われます。再認定審査は、ジオパークとしての質の維持、向上などを目的として行われます。

苗場山麓ジオパークは、2014年に日本ジオパークに認定され、2018年と2022年に再認定審査を受けました。そして、2026年に3回目の再認定審査を迎えます。次の再審査を控え、人事異動に伴い再審査を経験していない事務局職員も多いため、再審査への理解度を深める機会として11月12日(水)、13日(木)の二日間にわたり、前回の再認定審査の調査員を務められた鳥海山・飛島ジオパークの大野希一専門員にお越しいただき、ご指導のもと、意見交換を行いました。

再認定審査は、前回の審査結果通知の際に、日本ジオパーク委員会から示された課題に対して、どのような活動を行ったのか集約したプロGRESSレポート(進捗報告)と、ユネスコの世界ジオパークの認定審査の際にも使われる自己評価表(チェックリスト)、それに伴う添付資料の提出が必要となります。

今回は、大野氏から前回の指摘事項について詳しく説明をいただき、自己評価表の読み合わせも行いました。この4年間で新たに整備した場所の情報提供やジオガイドとの意見交換から考えを共有し、これから、苗場山麓ジオパークがエリア外へ向けて発信していくことや、エリア外からの訪問者に対する活動の必要性を改めて認識しました。来年は、今回のアドバイスを受け、さらに活発な活動の実施と事業を展開してまいります。



津南町埋蔵文化財センター「うもれあ」の説明



地域の取り組みについてヒアリング



10月 ジオパークガイドスキルアップ研修・ジオラフティング

10月4日（土）、午前9時～13時、ガイド研修でジオラフティングを実施しました。当日は丁度よい天候の中、絶好のジオラフティング日和となりました。

コースは、信濃川の津南町の巻下地区～鹿渡新田地区で実施しました。参加者は、12名（ジオガイド、ラフティングスタッフ、事務局）でした。

ジオラフティングのねらいは、信濃川の兩岸の地質的な素材を観察するとともにラフティングの醍醐味を味わうことで、単にラフティングをして楽しむだけで終わらないところが特徴です。川のはたらきを体感し、普段は地上から見ることでできない地質現象の一端を知ることを目的としています。

蛇行する信濃川の川面を約5km、2隻のボートで下りました。今回のコースでは、河岸段丘の基盤をつくる魚沼層（群）とその地層中に挟在する火山灰の鍵層の観察や火山性の堆積物、地層に貫入する岩体の観察を行いました。これまでに苗場山麓ジオパーク域内の千曲川・信濃川のコースを巡ったことになります。次年度は、この研修を生かし、ツアー実施などに繋げていくことを検討していきます。参加者からは、「魚沼層群の傾斜した凝灰質の地層が現れ、いつもは見られない地層を楽しめた」「地層の成り立ちを見ることができた」等の声が上がりました。

また、ラフティング後は、温泉宿「花とほたる湯のさと雪国」で温泉に浸かり身体を温め、一息つくこともジオラフティング研修の楽しみの一つとなっています。

ジオラフティングは、すでに商品化されています。ジオラフティングの魅力を更に発信すること、ジオパークガイドのみなさんのジオラフティングにおけるガイド力を向上させることに取り組んでいきます。



水力発電で使われた水の出口トンネル付近



11月 ジオパークガイドスキルアップ研修・浅間山北麓ジオパーク視察

11月8日（土）、好天の小春日和の中、遅れていた紅葉も鮮やかに色づき、錦秋の景色を見ながら1日かけて浅間山北麓ジオパークを視察してきました。

午前は、浅間山北麓ジオパークのガイドさんから鎌原村地域を案内していただく中、郷土資料館で鎌原村を埋没させた天明3（1783）年の噴火（浅間焼け）と、この噴火に起因する災害を中心とした展示を拝見しました。一瞬のうちに477名が落命したこの噴火は、火砕流が土石なだれとなって流れ、一部は利根川まで流れ下ったものです。鎌原観音堂に避難した93名が協力し合い新しい家族を構成し、その後、復興を成し遂げました。日本のポンペイといわれる鎌原村の出土遺物から火山災害の歴史に触れ、火山噴火の被災地であるイタリアのポンペイ遺跡の歴史と共通している部分があることを実感しました。

その後、浅間山北麓ジオパークの拠点施設をスタートし、鎌原観音堂、延命寺跡、被災後の街並みの観望など、1～3時間のコースを引き続き案内していただきました。まるで「プラタモリ」のように魅力的なコースと軽妙なガイドを受けることができました。苗場山麓ジオパークに例えると、津南町埋蔵文化財センター「うもれあ」を起点に、笹葉峰の崩壊・地すべり地形、見玉公園（石落し）、見玉不動尊、古型マンモス臼歯発見の露頭を巡るコースが頭に浮かびました。

午後のガイド意見交換会は、浅間山北麓ジオパークのガイド7名と、事務局3名、苗場山麓ジオパークからはガイド16名と事務局3名、合わせて29名で実施しました。

浅間山北麓ジオパークの古川専門員から概要説明をいただき、観光客は、年間1万人が訪れ、対応するガイドは基本的に有償、無償ガイドは少人数体制であることや、ガイド料の一部（保険料ほか）は事務局で活用している状況等をお聞きしました。観光客が減少する中、ジオパークのプログラムを生かし、ガイド自らホテルにガイドの提案に赴き、星空観察や早朝散歩など新しい取り組みを行い、現在は、ほぼ毎日ホテルからガイド要請があるそうです。

認定ガイド養成講座については、浅間山北麓ジオパークでは、6日間で10講座を受講することが認定要件で、これをクリアするとガイドに認定されます。苗場山麓ジオパークでは、毎年2月実施の検定試験に合格するとガイドに認定されます。

お客様にガイドを行うためには、継続してガイド研修への参加、ベテランガイドに同伴してスキルを学んで実践を積み、ガイド力と自信をつけることが大切です。これからもガイドを志向するかたを掘り起こし、地域を盛り上げていきます。



鎌原観音堂にて



浅間山北麓ジオパークの皆さんと記念撮影

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

樋口 幸希さん



『ジオサイトNo.18 蛇淵の滝』（ガイドナンバー 78 樋口 幸希さん）

私の苗場山麓ジオパークで一番好きな場所は、「蛇淵の滝」です。理由は、この滝に備わる三つの魅力に強く惹かれているからです。

まず一つ目の魅力は、その勇壮な姿です。苗場山麓から流れる硫黄川が中津川に合流する地点にあり、落差約三十メートルの二段滝となっています。岩の間から勢いよく流れ落ちる白い水は力強く、「ゴーッ」という音とともに迫力いっぱいに響き渡ります。滝の前に立つと胸がすっとするような、大迫力の臨場感と美しさが同時に味わえる特別な場所です。

二つ目の魅力は、周囲の自然と調和して生まれる四季折々の美しい景観です。春は雪解け水で流れが一段と勢いを増し、初夏には鮮やかな新緑が滝を柔らかく包み込みます。白い滝との相性は抜群で、清々しさと美しさを同時に感じられます。季節が変わるたびにまったく違う表情を見せてくれるため、何度訪れても飽きることがありません。特に秋は紅葉が見頃を迎え、観瀑台から眺める景色はまさに絶景です。赤や黄色の葉が滝の白い流れを引き立て、どこを切り取っても絵画のような美しさが広がります。

三つ目の魅力は、滝の名前の由来となった大蛇の伝説です。昔、熊取り名人が川を渡ろうとしたとき、丸太橋だと思って踏み出したものが、実は大蛇だったという話が語り継がれています。この伝説は、ただの伝説ではないと思います。自然に対して畏れと敬意を持ちながら暮らしていた人々の感覚がよく表れているような気がして、滝の前に立つと、その背景にある自然の力をより深く感じます。大蛇伝説は蛇淵の滝に神秘性を与え、その魅力を一層引き立てています。

蛇淵の滝は、伝説、迫力、景観、四季のうつろいと、さまざまな魅力が重なる場所です。私はこの滝を訪れるたびに、地域の自然や文化をもっと学び、いつか自分もガイドとしてこの素晴らしさを伝えたいという気持ちが強くなります。蛇淵の滝は、私にとって未来へつながる大切な原点です。大人になって本格的に活動できる日を目指し、これからも学び続けていきたいと思います。



展望台まで階段を下ります



夏



流れ落ちる水の迫力



秋

お知らせ

※大勢のご参加お待ちしております!!

- | | | | |
|----------|-------------|-------------------------------|---------------|
| 1月31日(土) | 8:00~13:00 | ガイドスキルアップ研修「雪上トレッキング」 | 場所: 川の展望台 |
| 2月11日(水) | 18:30~20:00 | 一般向け講座「今年度の講座のまとめ ガイド検定について」 | 会場: 津南町総合センター |
| 2月27日(金) | 18:30~20:00 | ガイドスキルアップ研修「インバウンド ガイドの基礎を学ぶ」 | 会場: 津南町総合センター |



突撃しよう！となりのジオ便り～十勝岳ジオパークからこんにちは～

北海道のほぼ中央、大雪山国立公園の南西部にそびえる十勝岳連峰。その山麓に広がる美瑛町と上富良野町の全域をエリアとするのが「十勝岳ジオパーク」です。

十勝岳ジオパークを訪れてまず目を奪われるのが、まるでパッチワークのように畑が連なる美しい丘の景観（波状丘陵）です。約 200 万年間に複数回発生した大規模な火山噴火による火砕流堆積物から形成された丘陵と、100 万年前から現在まで続く火山活動によってつくられた十勝岳連峰、そして自然と人の営みによって育まれた美しい風景が広がります。波状丘陵と十勝岳連峰を一望できる「深山峠」からの眺望や、全長約 2.5km にも及ぶ起伏に富むまっすぐな「ジェットコースターの路」では、火砕流堆積物の上で営まれる人々の暮らしを間近に感じることができます。四季折々に表情を変える丘では、春の新緑、夏の花畑、秋の紅葉、冬の雪原と、訪れるたびに新たな感動に出会えます。

ジオパークの名にもなっている十勝岳は、日本を代表する活火山の一つです。有史以降、幾度も大きな噴火を繰り返しており、特に大正時代の噴火に伴う融雪型火山泥流では 144 名もの犠牲者を出し、多くの農地が埋め尽くされました。この悲惨な災害と、絶望の中から立ち上がった人々の復興の物語は、作家・三浦綾子の小説『泥流地帯』にも描かれ、今に伝えられています。こうした火山災害の記憶を風化させず、火山と共に生きる知恵と防災の意識を未来へ継承することも、大切な活動としており、過去の泥流災害を踏まえた砂防施設を巡るツアーを実施しています。また、ツアーでは Apple 社の Mac の壁紙に採用され、世界的に知られるようになった「青い池」や、その源流である「美瑛川」など、火山活動と地下水の働きが生み出した幻想的な景観も人気の見どころです。

十勝岳ジオパークは、壮大な地球の営みと、厳しい自然と向き合いながら豊かな大地を築いてきた人々の歴史、そして火山がもたらす恵みを感じられる場所です。「丘と火山がおりなす彩り」の物語を、ぜひ現地で体感してみてください。



畑を耕すトラクター



青い池



令和 8 年度 苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業募集

苗場山麓ジオパーク地域を対象とした学術調査及び研究を支援し、苗場山麓ジオパークの学術資料の蓄積を図るため、大学院生、研究者等を対象に調査研究費の助成をします。1 件あたり上限 10 万円。ただし助成対象となる研究は 1 人、または 1 グループあたり 1 件とします。

●助成対象研究

苗場山麓ジオパークにおける地質学・地形学・考古学・歴史学・地理学・民俗学・植物学・生態学・社会学・観光学苗場山麓ジオパークに関連した地域振興及び地域経済にかかわる調査研究ほか

●助成対象者

大学院またはそれに相応する教育研究機関において、調査・研究に従事している大学院生、研究者等
初年度から調査研究を継続している 3 年以内の申請者（最長 3 年）
事務局が依頼した場合、期間内に成果を地域に発表できるかた
上記の条件のいずれかに該当し、令和 9 年 1 月 31 日までに実績報告書の提出が可能なかた

●応募の方法

苗場山麓ジオパークのホームページから新様式 1～4 をダウンロードし、記入の上、書類を直接事務局まで郵送してください。

【応募締切】令和 8 年 1 月 31 日（土）※当日消印有効

※詳細は苗場山麓ジオパークのホームページ（<https://naeba-geo.org>）

令和 8 年度苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業助成金募集ページをご覧ください。



苗場山麓ジオパークHP
令和 8 年度
学術研究奨励事業